

私は、PCR 検査の陽性者を感染者と読み変え、その数値の連日の報道に、最初から疑問を感じていました。

感染者数（実は陽性者数）よりは、**死亡者数や重症者数**が状況把握には有効と考えていました。特に 7 月に入り、PCR 検査における感染者数の増減に一喜一憂している姿に大きな疑問を持っていました。37.5 度以上の熱が 4 日間続いた後にやっと検査してもらえた時の感染者数と、現在のように、症状を感じていない人をも含めた**多数の集団検診による感染者数とは、根本的に意味が異なります**。多くの人に検査すれば、感染者数（本当は陽性者数）が増えるのは、誰が考えても明らかなことで、**それらの数値を比較しても何の意味もありません**。

また一方、高齢者や基礎疾患のある方に配慮するのは当然として、免疫の考え方に視点を合わさず、あまりにも**三密やマスクを絶対視する思考にも、疑問**を感じていました。

昨夜、**京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻ビッグデータ医科学部門 特定教授 上久保靖彦先生の論文**に接する機会を得ました。

その論文は仮説ではなく、**すべて資料・データに基づく信頼**できるものでした。ここに紹介します。

日本では、集団免疫は既に達成されている

① ウイルスの日本への入り方と その理由

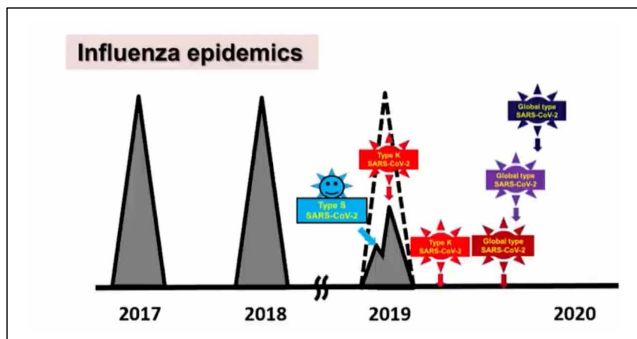
● S 型 K 型 武漢 G 型 欧米 G 型

これらが入ってくる時期の把握は、ウイルス干渉を考えればインフルエンザの発生グラフから結論できる。

ウイルス干渉とは、一つのウイルスが体内に入れば、他のウイルスが入ることが出来ない**サイトカインの働き**のことである。

先にインフルにかかっていたら、その時点でコロナには感染しないし、コロナにかかっていたらインフルには感染しないという現象である。

昨年のインフルの患者数は例年（1000 万人の患者）の 1/3 で死者数も圧倒的に少なかった。ということは、1~2 月から 3 月半ばには、多くの人が、くしゃみや咳が続くなど思っていたのが、コロナに感染していたのである。



2019 のインフルのグラフについて

最初は水色の S 型のコロナがきてインフルがちょっと減り、次に赤色の K 型のコロナがきて、あっという間にインフルが減ってきている。

裏返せば、コロナに多くの人が感染していることを示している（すなわちウイルス干渉サイトカインの働き）

● S 型 K 型 武漢 G 型 欧米 G 型

日本は、1/20~2/1 に武漢から 34 万人 その前後に中国から 184 万人？が入国している。

それ故、12月1月にかけてS型が入り、2月,3月の半ばにかけてK型が入り、多くの日本人がコロナと意識しないうちに感染していた。その結果、それぞれの抗体が作られ免疫を得ることが出来た。

そして**K型（S型は免疫力が弱い）の免疫が、その後の強烈な武漢G型 欧米G型に対して働いたので、欧米のような流行に至らなかった**のである。

日本は、中国や他国からの入国禁止がおそく、その間にK型の感染が十分にあったのが幸いしたのである、中国に近い国、台湾、ベトナム、オーストラリアなどで感染者が少ない理由も同様である。

欧米は、K型が入る前に早くに鎖国したので、S型しか入ってなくて免疫力が弱く、ウイルスが変異してくる武漢G型 欧米G型の大流行となったのである。

②分かりやすく言うと、日本では、**1月近辺で普通の風邪と思っていたのが、実はK型のコロナに感染していて、免疫を獲得した後に、きついG型が来た**のである。

現在は症状があるから検査するのではなく、集団検査が多くなっているから、感染者数が増えるのは当たり前であり、**陽性反応が出て、既に免疫を持っている全く問題のない人をもカウントしているという意味のないこと**をしているのである。

現時点では、誰を調べても陽性反応が出る可能性が大いにある。

K型で54%程度の人が免疫を持ち、今では、現在の日本が集団免疫を獲得したといえる。

ここ最近、新たな感染からの死亡者があまり出ていないことから理解できる。

(安井注：7月に入ってからの全国での毎日の死者数は、0~2名です。昨日は1名亡くなり、死者数が1000名になったと、マスコミウイルスが不安を煽る記事の書き方をしていますが、それはかなり以前に感染した方の死亡です。そしてずっと以前からの死亡者の累計は、ここ一ヶ月ほどは、1,000名弱であり、ほとんど増えていないのです。

これをみても、上久保先生が事実に基づいたお話をしてくれていると理解できます)

③●4月の国の緊急事態宣言、外出自粛、幼稚園・学校の休園休校は全く無意味であった。

●曝露（コロナウイルスが入ってくる）しない期間を作るのは危険で、**活動しながら抗体を作り免疫を維持していくことが必要**です。

第2派の食い止めも、我々が免疫を持つということにつきますので、家に引きこもってはいけません。

今までの考え方・政策は、すべて逆でした。

●同様に **三密（マスクも）は、コロナ対策としては意味がありません。**

コロナは、そこら中にゴロゴロしています。こぶしぐらいの大きさであれば、距離をとったりすることも意味があるかもしれませんが、目に見えない極少のウイルスがそこら中に散らばっている状況で、三密は何の意味をも持ちません。人と人との距離を〇〇Cm 広げたといって、何の意味も持ちません。

日本では、**集団免疫は既に達成されている**。そしてこの免疫を維持していく生活を考えていきましょう。

注：安井による深夜からの作業でしたので、大意は損なっていないと思いますが、多少の翻訳誤りがあることはお許し下さい。最初の10行と②の安井注以外は、すべて上久保先生のご意見です。